



## 少数精鋭で挑む、 持続可能な農業の為の担い手支援 ～ TAC 体制の活用による取り組み～

まつ だ ひさ き  
松田 久樹

秋田県・JA 秋田なまはげ 担い手支援室長

※本稿は2025年11月に行われたTAC・出向く活動パワーアップ大会での発表より構成しています

### JA 秋田なまはげの概要

当JAは、平成30年4月に秋田市をエリアとするJA新あきたと、男鹿市、潟上市天王地区をエリアとするJA秋田みなみの2JAが合併しました。日本海から吹く風と自然豊かな山々に挟まれた、秋田県沿岸中央部に位置し、昼夜の寒暖差が大きい土地柄で多彩な農産物の生産を支えています。

代表的な作物は水稲で、秋田県を代表する「あきたこまち」、令和4年に本格デビューした良食味品種「サキホコレ」です。その他には、ダリア、菊、枝豆、ネギ、メロン、梨など幅広い作物が生産されています。

設立	平成30年4月 (旧JA新あきた、旧JA秋田みなみの2JAが合併)	
本店	秋田県秋田市千秋留守町2番40号	
組合員数	正組合員	7,355人
	准組合員	14,295人
役員数	理事 23人(常勤5人) 監事 6人(常勤1人)	職員 266人 (内担い手支援室3人)
	事業実績	販売品取扱高 8,767,671千円 購買品取扱高 2,956,589千円

### 担い手支援室の役割

当JAの担い手支援室は、平成30年の合併時に担い手の規模が拡大し、課題、要望が多様化する中で、出向く活動を通じて担い手の意見を聞き取り、JA事業へ反映し、地域農業の発展に寄与することを目的に設立されました。担い手165戸を担当し、TAC一人当たり54戸という体制で出向く活動を実施しています。訪問活動を行ううえで、当初は10ha以上の大規模経営体に絞っていましたが、担い手の課題解決が地域農業の維持発展のため急務になったことを実感し、今後法人化が見込まれる地域や担い手まで対象を広げて取り組むこととしました。

設立当初は担い手のニーズの把握、営農経済関連事業の推進が主な業務となっていました。多様な担い手が増えてきたことにより、法人設立支援、営農計画の策定支援、スマート農業の導入や各種実証への取組みを行っています。JAの総合力をどのように地域の担い手へ届けるか、そこにTACの役割の本質があると感じています。

## JAが直面している課題

まず1つ目は、基盤整備事業で法人設立が増え、購買力を持つことでJA離れが進む恐れがあることです。2つ目は、農業融資や経営に関する相談の増加です。法人化による運転資金需要の増加により、担い手の資金計画が複雑化していました。3つ目は、若手職員の知識経験不足です。4つ目は、商系業者の売込激化です。農業資材から米の集荷まで多くの業者が担い手に直接営業をかけており、JAとしての存在感が薄れるリスクがあります。そして5つ目は、担い手の大規模化で圃場管理が追い付かないことです。規模が大きくなることで、除草、水管理、肥培管理などが行き届かず、収量や品質に影響を及ぼすケースが増えました。

こうした複雑な課題は単独では解決できず、部門間連携や関係機関との協力が欠かせません。多様な課題解決に向け、関係機関全体で担い手を支えていく対応を進めました。

## スマート農業ツールの活用支援

(農)はたやファームは集落型の新設法人であり、基盤整備後間もないことから、稲作の収量の安定化を不安視されていました。また、大規模化による商系業者からの売込に対応するため、JAの存在をアピールする必要がありました。そこで、ザルビオを活用した栽培作業効率化の提案を行い、JAとの関係性強化を目的として実証しました。

ザルビオを活用することで、生育ムラの大きかった圃場では、可変施肥により収量ムラの均一化が進みました。生育ステージ予測のアラート機能を活用し、適期作業を実現でき、結果として品質向上にもつながりました。この試験結果から有効性を感じていただき、法人所有の田植機

を可変施肥対応田植機へと更新し、ザルビオ、Z-GIS の導入にもつながりました。

今回の実証を通じ、法人からの信頼も構築され、数多くの相談に乗る体制をつくることができました。例をあげると、訪問時に水稻の欠株が多いことに気づき、確認したところ、粃枯れ細菌病が発生していたことがありました。そこで、育苗箱の消毒と苗箱の薬剤灌注を提案し、翌年には粃枯れ細菌病が大幅に減少しました。このスマート農業ツールを活用した取組みや担い手の営農課題の可視化と JA の支援価値の向上に直結する取組みとなっています。

法人からは、「スマート農業などの情報を提供してくれる。ザルビオだけでなく病害対策提案などもしていただきありがたかった」という声もいただき、関係性の強化にも大きく寄与しています。

## 融資担当との連携強化

常勤役員の発案で、情報共有と風通しの良い職場づくり、担い手経営体への訪問活動の強化、農業融資額の拡大等を目的に、担い手支援室と農業融資担当をワンフロア化し、日常的に情報共有ができる体制をつくりました。これにより、金融では知り得なかった栽培状況をリアルタイムで共有し、最適な融資提案が可能となりました。

営農指導や担い手支援室が築いた信頼関係をもとに、農業融資担当の顔つなぎがしやすくなりました。両部門の研修にクロス参加することに



	令和4年度	令和5年度	令和6年度
担い手訪問回数	605件	1,781件	2,107件
農業融資額	372百万円(108件)	508百万円(124件)	301百万円(74件)

ワンフロア化による連携の強化

より、営農も金融も基礎知識が底上げできる相乗効果を期待できます。その結果、融資案件がスムーズに進むとともに、担い手から「JAの訪問が増えた」と評価をいただけるようになりました。

## 若手職員のスキルアップ

若い営農担当が増え、作物知識、地域性、過去の営農経緯など把握しきれないケースが多くありました。そこで、入組5年未満の職員を必須とした研修を実施しました。その年ごとに研修テーマを持ち、職員のスキルアップを図る体制作りをめざしています。

研修を通じて知識と対応力がついたことにより、若手職員の営農相談スキルがアップするなど効果がみえてきています。また、農機担当が営農の基礎知識を理解できるようになり、「営農知識が深まることで、自分たちの販売している農機具の必要性が理解できた」と、部門間を超える成果も出はじめました。誰に聞いても一定レベルの回答が返ってくるJAをめざし、引き続き人材育成に力をいれていきたいと思えます。

## 土壌分析の実施強化

肥料価格の高騰、適正な施肥の提案、高温対策に向けた土壌改良剤の散布拡大を目的に、年間300点の土壌分析を2年間実施しました。その結果をもとに、それぞれの地域ごとの土壌の傾向を把握し、見える化しました。

座談会で地域ごとの傾向を説明し、そのうえで適切な施肥提案をできる体制を整えました。この取組みにより、品質向上はもちろん、JAこだわり米としての安定集荷へつながり、営農指導と販売事業の双方に効果を生むことができています。

## 担い手コンサルティング

(農)いりあいファーム瀧の頭は、経営面積が大きく、圃場管理が煩雑化していることと、代表の交代でJAとの関係性を改めて築き直す必要がありました。法人へのヒアリングや常勤役員を交えた事業検討会を開

催し、法人が持つ特徴・強みや弱み・課題を明確化し、問題点に対する解決を営農指導員を含めた会議で検討しました。品目別の分析から、稼げるネギ販売をめざし、JA 一丸となり対応しました。

こうした一連の取組みは大きな成果につながりました。まず、ネギの販売額は令和5年の750万円から、令和6年には3,136万円と大幅に増加しました。これは、担い手支援室、営農指導員が法人への訪問活動を強化し、何度も指導を実施し、効率的な作業体系を確立した結果です。

さらなる販売額アップをめざし、業務加工用中心だった一部を市場出荷へ切り替え、単価アップにもつながっています。また、作業効率化をめざし、トラクターアタッチ式ネギ定植機のデモを行ったところ、購入にもつながりました。法人からは「とにかく足しげくかよっていただき心強かった」と評価をいただき、経営と栽培の両面から寄り添う支援がJAと担い手との関係を強める大きなきっかけとなりました。

## まとめ

ここまで紹介した取組みは、JA 事業全体にも確実に成果として表れています。担い手支援室や農業融資担当による訪問活動の強化により、訪問件数が大幅に増え、JA と担い手との関係性が以前よりも強くなってきました。積極的なアプローチができるようになり、JA 利用率向上、

数値で見る  
JA の成果  
(訪問/事業対象件数等)



項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
法人数	94組織	100組織	107組織	7組織を支援
直行配達 担い手直送規格農業	34件	46件	54件	8件新規実施
ザルピオなどの提案 作業時間短縮技術提案	31件	79件	26件	
Z-GISの活用経営体数	7件	13件	13件	令和5年度に6件増、退会無
Xarvioの活用経営体数 (有料)	-	4件	13件	現ユーザーに活用フォロー中

実績数値		令和4年度	令和5年度	令和6年度
販売高	JA全体の事業実績(百万円)	6,940	6,498	7,055
	対象担い手の事業実績(百万円)	2,536	2,503	2,604
	対象担い手の事業実績/JA全体の事業実績(%)	36.5	38.5	37.0
購買高	JA全体の事業実績(百万円)	2,854	3,161	3,078
	対象担い手の事業実績(百万円)	896	1,227	1,196
	対象担い手の事業実績/JA全体の事業実績(%)	30.0	38.8	38.9

数値で見る  
JA の成果  
(販売高・購買高)

## 取組みの成果

担い手コスト低減につながり、令和5年度には、JAバンクあきた融資実行額最優秀賞を受賞するなど、JAの総合事業として相互に良い影響を生んでいます。また、JA職員の人材育成を通じ、生産者への指導力・提案力がアップし、予約率の向上にもつながっています。

## JA事業に関する数値成果

訪問件数や支援対象数といった活動量の増加はもちろんですが、販売高、購買高、事業面でもたしか伸びが見られます。法人化支援がJA取引の安定化、融資連携を生み、結果として貸出金の増加や相談件数の増加といったように、今回の取組みが事業数値へ直結しています。担い手の課題に寄り添いながら、その解決を通じてJA事業にもプラスの循環を生み出す、そうした支援が少しずつ形になってきました。

## 全国のTACに向けたメッセージ

まなびあい、輪となり、支え合うことで、より強い農業、より豊かな地域が生まれると信じています。“なかま”である全国のTACがつながることのできるはずです。

TACの皆さん、地域に必要とされるJAをめざし、これからも現場に寄り添い、ともに歩み続けがんばりましょう。

- ・「厳しい農業情勢」と言われ続けて久しい。  
しかし、変化の時代に求められているのは“対応する力”。
- ・いまま、これからもTACはその最前線。  
現場に出向き、農家とともに課題を共有し、解決へ導く貴重な存在。
- ・実際は、一人の力では限界があります。  
だからこそ“協同の力”で地域を支え、未来を築いていきます。
- ・全部門（金融・共済・営農経済）が融和的に色  
こく連携し、“JAの総合力”を発揮することで、地域農業における  
TACが果たす役割や存在感も大きくなります。
- ・まなびあい、輪となり、支え合うことで、より強い農業、より豊かな地域が生まれる  
と信じています。“なかま”である全国のTACがつながることのできるはず。
- ・まさに今、TACの皆さん、地域に必要とされるJAを目指し、これからも現場に寄  
り添い、ともに歩み続け頑張  
りましょう！

秋田をまはげ農業協同組合 担い手支援室  
松田 久樹 大淵 貴仁 佐藤 俊和

全国のTACへ向けたメッセージ